

「ふるさと（羅臼）から学ぼう」

～「知床学」を通して、ふるさと「羅臼」の将来を考えよう～

学校名 羅臼町立羅臼小学校

校長名 西田 威嗣

担当者 佐藤英雄

1 本校のESD特徴

「時代の変化に適応できるよう、個性を磨きながら人間性を豊かにしていく児童を育てる」をテーマに本校は教育活動を実践している。

その課題達成のために主として「総合的な学習の時間」において「知床学」を位置づけ、児童が地域の自然や環境に関心を持ち、主体的な追究活動を通してよりよく問題を解決する資質や能力を育てていきたい。そして、学びを通して、地域の誇りや課題といった、リアルなふるさと「羅臼」の姿を捉えていけるようにしたい。

そのために教育課程上に位置付けた本校の総合的な学習の時間の全体像（「知床学」を含む）が以下である。

2 教育課程への位置づけ

以下のように、ふるさと学習を知床学と教育課程に位置付け、年度始めに全職員で活動内容を確認している。12月に行うユネスコスクール発表会に向け、各学年で探究活動を行っている。

		第3学年（70時間）	第4学年（70時間）	第5学年（70時間）	第6学年（70時間）
目標を実現するにふさわしい探究課題（学習活動）		ふるさと「羅臼」を愛し、ふるさとの未来を考える			
テーマ		ふるさと「羅臼」を愛し、ふるさとの未来を考える			
探究課題		地域の自然環境(動植物)にかかわる人々の工夫・思い・願い	地域の漁業・福祉にかかわる人々の思いや願い	地域の産業（特産物）にかかわる人々の工夫・思い・願い	地域の未来と自分達の生活にかかわる人々の思いや願い
ふるさと学習		◇羅臼の生き物を伝えよう【52時間】 ・海以外の生き物（21時間） ※羅臼川探検 ・海の生き物（23時間） ・ワシ学習（オジロワシなど）【8時間】 ※クマ学習（2時間）知床財団協力	◇羅臼の漁業をくわしく調べよう【34時間】 ・羅臼で獲れる魚の種類・年別漁獲高 ・漁港見学（船や漁協施設見学） ・漁師さんの話（工夫・将来など） ※羅臼川探検（水質調査） ・養殖などについて（ウニ・さけふ化場） ※ホッケ3枚おろし体験（CS協力） ・発表会を開こう（ユネスコ視聴3h）	◇羅臼の産業を探ろう【41時間】 ・どんな産業があるのか調査しよう。 ・市場、こんぶ倉庫見学 ・こんぶひれ雁体験（こんぶ漁師さん講話） ・こんぶ図鑑を作成しよう ・こんぶフェスタを開催しよう ・ユネスコスクール発表会 ☆鮭フレーク・縄結び体験 ※クマ学習（2時間）知床財団協力	◇羅臼の将来を考えよう【49時間】 ・羅臼の良さを発見しよう（産業・食べ物・観光名所・自然・動植物・人などを再発見） ※SNS発信で、羅臼町をアピール ※町域おこし隊との連携 ・羅臼の課題を考えよう ・ユネスコスクール発表（3時間）
総合的な学習の時間			◆羅臼の福祉を探ろう【22時間】 ・アイマスク、車イス、高齢者・手話体験（3時間） ・羅臼の福祉施設（役場福祉課協力・福寿園訪問）	◆伝統芸能「知床いぶき樽」を体験しよう。【14時間】 ・学習発表会で伝統芸能を発表 ◇幼児とふれ合おう【11時間】計画、準備（園訪問）	◆自分の将来を考えよう【13時間】 ・自分史と未来史（キャリア教育）
		◆羅臼町の防災について知ろう。 ・羅臼町で起こった災害を知ろう（新聞紙スリッパ作り体験）【8時間】	◆防災に関する車を知ろう ・防災車両見学【2時間】 ・防災車両パンフレット作り【2時間】	◆羅臼町の防災について知ろう2 ・役場総務課の取組について知る（段ボールベット作り）【2時間】	◆津波実験から災害を考えよう（釧路教育大生協力）【2時間】
領 北 土 方		◇北方領土を調べよう調べよう ・動植物・地形・気候など【8時間】	◇北方領土をくわしく知ろう ・北方領土資料館見学【10時間】	◇北方領土の人々の暮らしについて知ろう【6時間】ニ・ホ・ロ見学	◇北方領土の歴史について学ぼう 【2時間】・戦後未解決問題について考察

3 活動事例

A. 熊学習

ふるさと羅臼では、クマを巡ってどのような問題が起きてきたのか。また、現在どのような課題があるのか。ヒグマとの付き合い方や出会ったときにどうふるまえばよいのか…。人とクマの暮らしが隣り合わせという羅臼町の現状を、知床財団に協力いただき、写真や映像、模型などを活用しながら学んでいる。触れる/考える/知るといった学習活動を3年生時と5年生時に発達段階に応じた総合的なプログラムで展開している。



B. 羅臼こんぶ学習（こんぶ図鑑をつくろう）

羅臼の特産である「羅臼こんぶ」を中心課題として学習を展開した。こんぶの生態、海川の魚、流通や宣伝、川の水質等の環境の4つの課題に対し、子どもたちの興味関心に沿ってグループで探求活動を行った。羅臼漁協組合や地元漁師、流通関係者に取材するなど、地元の協力を得ながら、実体験を重ね学びを深めた。学んだことを一冊の本（図鑑）にまとめ「羅臼こんぶ図鑑」として発行し、保護者や地域、また海洋教育サミットなどで発表をした。



また、コロナ禍で中止となった町の行事「こんぶフェスタ」を学校内で開催し、自分達の学びの成果を発信する試みも行った。

C. 羅臼の良さを再発信

羅臼の将来を再考察するために、第6学年では、地域の良さを再発見する活動を行った。地域の人・もの・特産物や食べ物・観光名所や自然など子ども達が独自取材を行いSNSで発信する取組を開始した。町の地域おこし隊との連携や名所の温泉などのボランティア活動も行い、自分達が体験したり、探究活動で感じたことを更に他の方に情報発信する取組を行った。



4 成果と課題

知床財団や漁協との連携、地域に根ざした職業に携わる方々をゲストティーチャーに招くことにより、専門的な話や資料に触れることができたり、本当の地域の姿を見る/知る/体感することができたことが成果である。また、今年度から情報発信の方法を不特定多数が閲覧するSNSを活用し、より多くの方に情報を発信することで、学びの方法が広がったことも成果である。

一方、課題としては、毎年同じような体験活動を継続して行くのではなく、子ども達の実態にあった学習課題や活動を行っていく必要があることである。教員の異動や地域素材の生かし方など、年度によって学びの質が変化しないように学校として学習活動の質の維持をしていくことが課題である。